



2011 CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report

[web版フルレポート]

地球と社会と人にやさしい企業を目指して



編集方針

本レポートは、富士重工業株式会社・国内関連会社・海外関連会社のCSR(企業の社会的責任)の取り組み成果をご紹介し、お客さま・株主の皆さま、取引先・地域社会・従業員などのステークホルダーとコミュニケーションを図り、取り組み内容のさらなる向上を目指すことを目的として発行しました。

なお、本レポートは冊子版とweb版フルレポートで構成されています。冊子版では、ステークホルダーにお読みいただきたい特徴的な取り組み成果を記載した「特集記事」を中心にCSR活動の要約を掲載しています。フルレポートでは「特集記事」のほか、「当社グループ全体のCSR活動」、「当社各事業所や関連会社におけるCSR活動」を詳細に掲載しています。冊子版、フルレポートの掲載内容については2ページをご覧ください。

また、2011年度版では、首都大学東京の奥真美教授に第三者意見を依頼しました。この意見書は本レポート93ページに記載しています。

CSR・環境情報紹介ページのアドレス:

<http://www.fhi.co.jp/envi/csr/index.html>

対象範囲

対象企業

富士重工業株式会社(主要な生産・開発拠点の所在地)

- スバル自動車部門
[群馬製作所(群馬県太田市ほか)、東京事業所(東京都三鷹市)]
- 産業機器カンパニー[埼玉製作所(埼玉県北本市)]
- 航空宇宙カンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市、愛知県半田市)]
- エコテクノロジーカンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)]

国内関係会社(国内関連企業部会参画の5社)

- 輸送機工業株式会社(愛知県半田市)
- 富士機械株式会社(群馬県前橋市)
- 株式会社イチタン(群馬県太田市)
- 桐生工業株式会社(群馬県桐生市)
- 株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)

海外関係会社(北米環境委員会参画の4社)

- S I A:Subaru of Indiana Automotive,Inc.(インディアナ州ラファイエット)
 - SOA:Subaru of America,Inc.(ニュージャージー州チェリーヒル)
 - SC I:Subaru Canada,Inc.(オンタリオ州ミシサーガ)
 - SRD:Subaru Research & Development,Inc.(ミシガン州アンナーパー)
- 上記関係会社以外にも、国内スバル販売特約店等の活動状況などを紹介しています。

対象期間

2010年度(2010年4月~2011年3月)の実績と一部それ以前の取り組みや本レポート発行直前までのものを含みます。

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

本レポートに関するお問い合わせ先

富士重工業株式会社 経営企画部
〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号 スバルビル
TEL 03-3347-2665 FAX 03-3347-2381

発行時期

前回発行:2010年8月
今回発行:2011年9月
次回発行予定:2012年8月

「2010 CSRレポート」第三者評価への対応について

2010年度版でいただいた第三者評価に対しては次のように取り組んでいます。

【CSR活動全般】

- CSR方針の策定に伴い、CSRのリスクと機会の両面性を理解し基本部分(守り)と戦略部分(攻め)について、具体的に課題を整理すること。
- »CSR・環境委員会を見直し、経営トップを委員長とするCSR委員会を設置しました。CSR委員会では、社会からの要請に確実に対応できるように、CSR8項目にかかわる専門の委員会および部門で構成し、活動に取り組んでいます。

【トピック別の活動】

- グリーン調達からCSR調達への移行については、業界他社との協力や進捗をわきまえながら対応を進めること。
- »CSR活動をサプライチェーンの皆さまとともに推進していくため、安全・品質、人権・労働、環境、コンプライアンス、情報公開の各項目を織り込んだCSR調達ガイドラインの発行を予定しています。

- 販売特約店のエコアクション21の取得をマイルストーンとして、環境活動だけでなくコンプライアンスや顧客・地域への配慮といったCSR活動を展開すること。

- »販売特約店のエコアクション21活動には、コンプライアンスや顧客・地域への配慮も組み込まれています。エコアクション21活動のPDCAサイクルを回していきながら個別課題に対応していきます。

- 交通安全活動についてはステークホルダーへのインパクトや成果を明確にすること。

- »自動車メーカーとして「安全の追求」は最重要テーマです。スバルはあらゆる方向から乗員を守る「スバルオールアラウンドセイフティ」を目指しています。また、当社は事業者として安全衛生活動に取り組んでいますが、そこでも、従業員の交通事故ゼロに取り組んでいます。

【報告の媒体と内容】

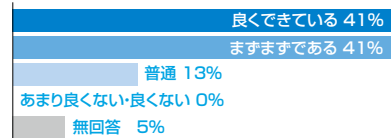
- webでの情報開示については、トップページからのアクセスなど広報と連携したCSR情報開示についても検討すること。

- »CSR情報を当社ホームページのトップページからアクセスできるように改めました。

「2010 CSRレポート」アンケートご協力のお礼とご報告

「2010 CSRレポート」(2010年8月発行)のアンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。多くの方からご回答をいただき、2011年度版の参考にさせていただきます。結果についてご報告します。

1.本レポートをご覧になり、内容はいかがでしたか。



2.特に関心を持たれた部分

- 1位 特集記事
- 2位 トップメッセージ
- 3位 お客さまのために

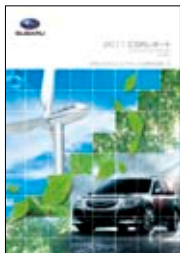
3.今後、内容の充実を望まれる情報や当社の活動に関するご意見など

- 海外での活動を掲載してほしい。
- もう少しシンプルに、わかりやすく楽しく読めるものにしてほしい。
- 車社会の未来図、展望について知りたい。
- ディーゼル、ハイブリッド、EVの開発状況、ビジョンが知りたい。
- 安全と環境を両立させる車づくりについて知りたい。
- 販売店を含めCSIには満足している。一般的ではなくスバルらしい報告を期待している。



冊子版

当社グループのCSR活動をポイントを絞って掲載しています。
【全38ページ】



web版フルレポート (PDF)

当社グループのCSR活動を網羅的に紹介しています。
【全94ページ】



- 3 トップメッセージ
- 5 環境担当役員メッセージ
- 6 富士重工業グループの概要
- 7 事業紹介

P9 特集1

交通安全への取り組み
SUBARUならではの交通安全思想
～交通事故ゼロを目指して～



P11 特集2

販売特約店での取り組み
国内スバル販売特約店の全店が「エコアクション21」の認証取得



P13 特集3

クリーンな工場 大泉第5工場
環境にやさしく、変化に強い工場が誕生



P15 特集4

次代を担う子どもたちの育成
未来のためにSUBARUができること



社会性報告

- 17 CSRマネジメント
- 19 コーポレート・ガバナンス/リスクマネジメント
- 20 コンプライアンス
- 21 すべてはお客さまのために
- 23 従業員とともに
- 25 東日本大震災復興支援
- 26 社会とのかかわり—国内での取り組み—
- 27 社会とのかかわり—海外での取り組み—
- 28 お取引先とともに/株主の皆さまとともに

より詳細な情報をweb版に掲載

環境報告

- 29 環境マネジメント
- 32 第4次環境ボランティアプラン
- 33 クリーンな商品
- 35 自動車リサイクル
- 36 クリーンな販売・サービス

より詳細な情報をweb版に掲載

- 37 第三者意見
- 38 第三者意見をいただいて

★：web版フルレポートのみに掲載している項目
▲：web版フルレポートでより詳細な情報を掲載している項目

社会性報告

- 17 CSRマネジメント ▲
- 21 コーポレート・ガバナンス ▲
- 22 リスクマネジメント ▲
- 23 コンプライアンス ▲
- 25 すべてはお客さまのために ▲
- 29 従業員とともに ▲
- 32 東日本大震災復興支援
- 33 社会とのかかわり—国内での取り組み— ▲
- 35 社会とのかかわり—海外での取り組み— ▲
- 37 お取引先とともに
- 38 株主の皆さまとともに ▲

環境報告

- 39 環境マネジメント ▲
- 43 第4次環境ボランティアプラン ▲
- 47 環境会計 ★
- 50 環境パフォーマンス ★
- 51 クリーンな商品 ▲
- 55 自動車リサイクル ▲
- 58 クリーンな工場 ★
- 61 クリーンな物流 ★
- 62 クリーンな販売・サービス ▲
- 63 海外関係会社の環境活動報告 ★

サイトレポート

- 65 群馬製作所 ★
- 71 宇都宮製作所 ★
- 77 埼玉製作所 ★
- 81 東京事業所 ★
- 85 本社 ★
- 87 国内関係会社 ★
- 91 取り組みのあゆみ ★
- 93 第三者意見
- 94 第三者意見をいただいて

今年3月に発生いたしました東日本大震災におきまして、被災された皆さまには謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。弊社といたしましても、グループ全体で支援に取り組んでまいります。

私たちスバルでは、事業活動を通じて、持続的な社会の発展に貢献することが富士重工業グループの使命と考えています。事業活動における自らの社会的責任を認識するとともに、従業員の社会貢献活動を応援しています。

2007年度からの4年間にわたり取り組んできました中期経営計画においては、経営ビジョンとして「存在感と魅力ある企業」を目指し、「お客様第一」を基軸として活動してまいりました。最終年度である2010年度においては、東日本大震災により生産、販売に多大な影響を受けましたが、目標を達成することができました。

2011年度から2015年度の新たな中期経営計画においては、経営ビジョンは不変とし、これまで通り「お客様第一」を基軸に諸課題の解決に取り組むとともに、CSRとして、「社会的課題の解決に寄与する商品・サービスを提供する企業」と「さまざまなステークホルダーとのかかわりを大切にする企業」というより具体的な目標を掲げ、取り組みを推進してまいります。

新中期経営計画に先立ち、当社は、昨年11月に新しいブランド戦略をスタートさせました。

ブランドステートメント“Confidence in Motion”を新たに設定し、今後のスバルブランドの考え方や方向性を示しております。「Confidence」は当社が貫いてきた「確かなクルマづくり」であり、それを通してお客さまと築いてきた信頼関係を表しております。また、「in Motion」は時代の動きを捉えて積極的にお客さまの期待にお応えする我々の革新的な行動、意思を表しております。そして、「安心と愉しさ」をスバル

の新たな価値として、従業員が一丸となりお客さまの視点に立った商品を提案し続けていきます。

商品面においては、昨年5月に先進運転支援システム「EyeSight(ver.2)」を搭載したレガシィを発売しました。「EyeSight(ver.2)」は「ぶつからないクルマ」を目指した技術であり、前方衝突の回避、衝突被害の軽減、運転負荷の軽減を図り、交通事故削減の社会的課題解決に向けて取り組んでおります。また、当社のコア技術である水平対向エンジンを全面刷新し、フォレスターに搭載し発売しました。約10%の燃費向上を図り、環境性能と走行性能を高次元で両立しました。これからも、環境性能や安全性能のさらなる向上に努め、お客さまへ安心と信頼を提供できるよう、クルマの開発に取り組んでまいります。

また、その他の分野においても、環境面での社会的なニーズが高まる中、当社の固有技術を活かした新商品・新技術の開発に取り組んでおります。

環境面においては、今年3月に、国内スバル特約店の全販売特約店・全拠店で環境省が策定した「エコアクション21」の認証取得を完了しました。当社も、国内スバル特約店の環境に対する経営の取り組み強化を目指し、認証取得を積極的に奨励、支援してまいりました。今後もさまざまな環境問題に対し、製品開発から販売に至る事業活動のあらゆる段階において取り組みを推進していきます。

これからも、世界で事業を展開する「企業市民」としての責任を果たしながら、皆さまからのご期待に応え、世界の皆さまから信頼される企業となることを目指してまいります。

代表取締役社長

吉永泰之



このたび東日本大震災により、亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆さまに対し、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

昨年10月、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が、11~12月にはメキシコのカンクンで国連気候変動枠組条約第16回締約国会議(COP16)が開催されました。COP10では新戦略計画(名古屋目標)が採択され、当社もその動向を注目しています。

当社は、総合輸送機器メーカーとして、地球環境と事業活動の深いかかわりを認識し、商品開発、部品調達、製造、物流、販売のサプライチェーンを通じて、地球環境問題に対し、社会的責任を全うする企業でありたいと考えております。

これを実行するため、2010年2月に、本社、製作所、事業所、一部のグループ企業がひとつの環境マネジメントシステムを構築・運用し、ISO14001の統合認証を取得しました。それまでの事業所ごとの環境管理を、全社一元化し、より効率的・合理的な体制を構築しました。

また、国内スバル販売特約店の環境に対する経営の取り組み強化を目指し、環境省が策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21」^{※1}の認証取得を積極的に奨励、支援し、2009年1月より順次認証取得を進めてきましたが、2011年3月には、国内全スバル販売特約店・全拠店でエコアクション21の認証取得を完了し、販売における環境活動レベル向上を図りました。

北米では、SIA、SOA、SCI、SRDの海外関係会社4社がISO14001の認証を取得し、活動を進めています。

このように生産工場だけでなく、販売特約店まで、当社事業活動のサプライチェーンにおける環境への取り組みを目指しています。

当社の具体的な環境への取り組みは、「第4次環境ボランティアプラン2007~2011」として2006年に発表し、進めてきました。今年はその最終年として計画を仕上げたいと考えます。また、次期ボランティアプラン2012~2016を様々な環境動向を見据えて策定し、公表したいと考えています。

今後とも、スバルをよろしく願い申し上げます。

取締役専務執行役員
環境委員会委員長

池田 智彦



※1 エコアクション21は、事業者の環境取り組みを促進するとともに、その取り組みを効果的・効率的に実施するため、環境省が策定したガイドラインに基づき、認証・登録する制度です。

会社概要 (2011年3月31日現在)

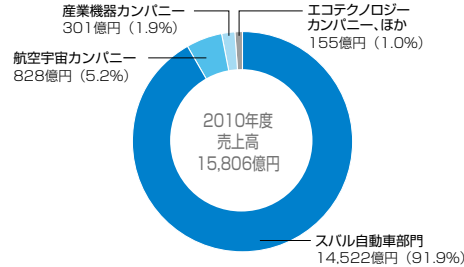
社名 富士重工業株式会社
(Fuji Heavy Industries Ltd.)
 創立 1953年7月15日
 資本金 1,537億円
 従業員数 27,296名(連結)
 12,429名(単独)
 本社 〒160-8316
 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
 代表電話番号 03-3347-2111

売上高 15,806億円(連結)
 10,759億円(単独)

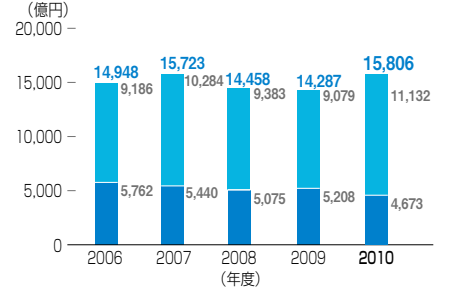
営業利益／ 841億円(連結)
 損失 482億円(単独)
 経常利益／ 822億円(連結)
 損失 487億円(単独)
 当期純利益／ 503億円(連結)
 損失 339億円(単独)
 連結子会社 国内51社、海外20社
 持分法適用の子会社 国内6社、海外3社

*売上高～当期純利益／損失の数値は2010年度実績です。

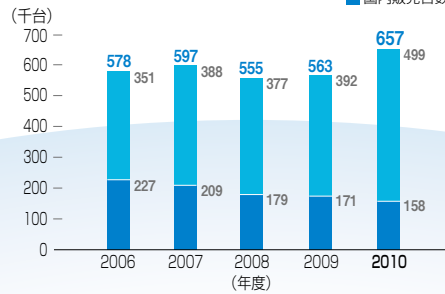
2010年度売上高部門別比率(連結)



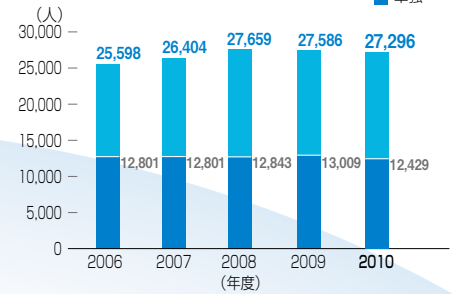
売上高推移(連結)



販売台数の推移(連結)



従業員数の推移



*グラフの数値は四捨五入のため、比率の総和が合わない場合があります。

主な拠点紹介



*2 本レポートでは、航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニーの生産拠点を「宇都宮製作所」と、また、産業機器カンパニーを「埼玉製作所」と表記している場合があります。

独創的な先進技術で、 時代のニーズに対応した商品を開発・製造

富士重工業株式会社は、スバル[SUBARU]ブランドのもと、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして4つの事業部門を展開しています。「スバル自動車部門」「航空宇宙カンパニー」「産業機器カンパニー」「エコテクノロジーカンパニー」。その独創的な先進技術と個性により、快適で楽しい未来の創造に貢献します。

SUBARU Automotive Business

スバル自動車部門

「すべてはお客さまのために」という姿勢で商品を提供

所在地 | 群馬製作所(群馬県太田市、伊勢崎市、邑楽郡大泉町)
東京事業所(東京都三鷹市)

ブランドステートメント



富士重工業は、2010年11月2日、スバルの世界統一ブランドステートメントとして"Confidence in Motion"を新たに設定しました。「Confidence」は、スバルが貫いてきた「確かなクルマづくり」の姿勢と、「安心とゆしさ」をお約束し続けることにより築かれるお客様との信頼関係を表しています。「in Motion」には、積極的に時代の動きを捉えて「Confidence」を進化させ、お客様の期待に応じて革新を続けていく強い意思を込めています。スバルは"Confidence in Motion"を通じてスバルならではの「クルマのある自由で楽しい生活」を提案し、自分らしい豊かな人生を求め、より多くのお客様の期待に応えるために、自らを革新し続けていきます。



トレジャ
「New Compact Smart Wagon」をテーマに、力強くたくましいエクステリア、ワゴンテイストを備えたユーティリティ、優れた環境性能を併せ持つツーリングコンパクトとして2010年11月に発売されました。なおトレジャは、トヨタ自動車とのアライアンスによるOEM供給を受けるモデルです。

レガシィ ツーリングワゴン
20年間磨きあげてきたグランドツーリング性能と快適性と環境性能を併せ持ち、「新しい時代にふさわしい豊かさの提供」をテーマに開発された5代目レガシィ。2010年5月には「見つからないクルマ」を目指しEyeSight(ver.2)を搭載、「安全とゆしさ」という新しい価値を提供しています。

当社は1958年に「スバル360」の発売で自動車メーカーとしてスタートを切って以来、日本の自動車産業の発展に寄与する個性的なクルマを送り出してきました。例えば、「スバル360」は、航空機づくりの思想をふんだんにとり入れた精緻なパッケージング、徹底した軽量化に斬新な技術的特長がありました。1966年に発売した「スバル1000」は、当社の個性ともいえる水平対向エンジンを搭載。量産車として先駆けとなる前輪駆動(FR)レイアウトを採用しました。

1972年、世界初の乗用四輪駆動車を発売。以後スバルは、このレイアウトを「シムメトリカルAWD※1システム」として確立してきました。1990年代以降、日本ではハイパワーターボエンジンと四輪駆動を組み合わせた高性能ステーションワゴン、米国では乗用車の快適性とSUVの機能性を融合させた「クロスオーバー」※2という分野を切り開いてきました。

スバルは、「ドライバーズカー」として快適で楽しい走りや地球環境との融合を約束するクルマの開発を続けています。

BOXER Sports Car Architecture
(2011年3月ジュネーブモーターショー 技術コンセプトモデル)
BOXER Sports Car Architecture は、トヨタ自動車(株)と共同開発中のFRスポーツ車の新しい走りを支える技術コンセプトです。スバルのコア技術である水平対向(ボクサー)エンジンを中心に、FRスポーツ車の性能を最大限に引き出すために、新たに開発したFRレイアウトの技術として提案しています。



国内関係会社

富士機械株式会社(群馬県前橋市)
事業内容:自動車部品・産業機械
農業用トランスミッションの製造、販売

株式会社イチタン(群馬県太田市)
事業内容:自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売

桐生工業株式会社(群馬県桐生市)
事業内容:スバル特装車の製造、スバル用部品の
物流管理・スバルエンジン・
トランスミッションなどの再生

株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)
事業内容:自動車およびその部品の梱包、出荷、
陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

海外関係会社

SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.
スバル オブ インディアナ オートモーティブ インク
(インディアナ州ラファイエット)
事業内容:米国におけるスバル車の製造、
トヨタ車の受託生産

SOA: Subaru of America, Inc.
スバル オブ アメリカ インク
(ニュージャージー州チェリーヒル)
事業内容:米国におけるスバル車および部品の販売、整備

SC I: Subaru Canada, Inc.
スバル カナダ インク
(オンタリオ州ミシサーガ)
事業内容:カナダにおけるスバル車および
部品の販売、整備

SRD: Subaru Research & Development, Inc.
スバル リサーチ アンド ディベロップメント インク
(ミシガン州アンナーバー)
事業内容:北米市場におけるスバル車の研究開発

※1 AWD
All Wheel Drive 四輪駆動。

※2 クロスオーバー
1995年8月ステーションワゴンにSUVの機能性を融合させたスバルアウトバックを発売。

ボーイング787は、ボーイングの旅客機として初めて主要な部分に、アルミよりも軽くて丈夫な炭素繊維複合材を採用した画期的な機体です。富士重工業は主翼と胴体をつなぐ中央翼を製造しています。2011年7月には日本でも公開され、今後世界中の空で活躍する旅客機として期待されています。



© The Boeing Company

Aerospace Company

航空宇宙カンパニー

航空機づくりの技術とスピリットを伝承

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)
半田工場(愛知県半田市)

1917年に創設された航空機メーカー「中島飛行機」。航空宇宙カンパニーはその航空機づくりの技術とスピリットを受け継ぎ、主翼などの複合材を含む航空機構造体の開発技術や、無人機分野でのIT技術、飛行制御技術を融合した高度システムインテグレーション技術など、さまざまなカテゴリでナンバーワン技術を確立しています。その技術を応用し、ヘリコプター、固定翼機、無人機の開発・生産を行っています。

さらに、大型旅客機や小型ジェット機の開発・生産にも参画。世界レベルでの発展を目指して、新たな分野に積極的に挑戦しています。

国内
関係会社

輸送機工業株式会社(愛知県半田市)
事業内容:航空機部品の製造、販売

Industrial Products Company

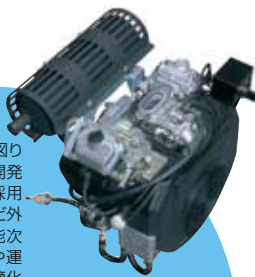
産業機器カンパニー

地球のあらゆる場所で使われる汎用エンジンを量産

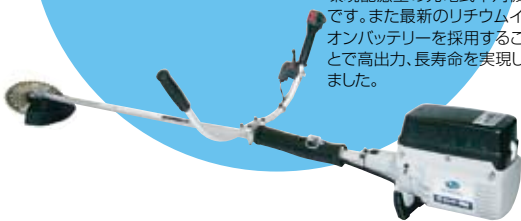
所在地 | 埼玉製作所(埼玉県北本市)

産業機器カンパニーでは、「ロビン」ブランドの汎用エンジンとロビンエンジンを搭載した商品を開発・生産・販売しています。ロビンエンジンは2,000種類以上の豊富なラインナップでお客さまのニーズに応え、社会の基盤をつくる建設機械や農業機械をはじめ、豊かな生活を彩るレジャー機器、発動発電機など、世界中で愛用されています。酷暑、極寒、砂漠、水上など地球上のあらゆる場所、使用条件で安定的に動き続けるため、性能向上に努めています。

EH72FHは、吸気流量の向上を図り高出力化を実現するとともに、新開発の電子制御燃料噴射システムを採用することで、外気温や空気濃度など外的要因に影響を受けにくい高性能次世代汎用エンジンです。始動性や運転性、燃料噴射マネジメントの最適化により燃費性能・排ガス性能の向上や加減速時における機敏な反応を実現しました。



eカッタープロは、排気ガス削減や騒音、振動に配慮した環境配慮型の充電式草刈機です。また最新のリチウムイオンバッテリーを採用することで高出力、長寿命を実現しました。



Eco Technologies Company

エコテクノロジーカンパニー

住み良い環境と資源循環型社会に貢献

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)

エコテクノロジーカンパニーは、廃棄物の収集運搬やリサイクル処理のための各種車両・装置など、住み良い環境と資源循環型社会に貢献する多様な製品を手がけています。またクリーンなエネルギーを生み出す風力発電システムを開発し、製品を通じて地球環境保全に取り組んでいます。

また、世界で初めて実用化した高層ビル無人清掃ロボットの技術は、屋外型清掃ロボットやごみ搬送ロボットの実証実験に応用されています。

高速道路のサービスエリア・パーキングエリアの休憩施設を自動で清掃する「サービスエリア清掃ロボットシステム」をNEXCO中日本と共同で開発しました。今後、お手洗いやレストランなど営業施設内の清掃への導入を計画しています。



当社が長年培った航空機技術の魂と、地球環境に対する真摯な思いが、新たな発想の風力発電システムを生み出しました。日本の厳しい自然環境の中で、より効率的なパフォーマンスを発揮します。

2010年4月に発売された電動式塵芥収集車フジマイティエレクトラは、廃棄物の収集や排出などの作業をシールドバッテリーを動力源とした専用モーターで行うため、エンジンを停止させることができ、作業時の二酸化炭素の排出量や消費燃料、騒音などを大幅に削減することが可能です。

